




収受年月日	議長	事務局長	書記
29・12・5			
第 117号			

平成 29 年 12 月 5 日

埴町議会議長 大縄武夫 様

議会運営委員会委員長 割貝寿一

広報常任委員会委員長 吉田克則



委員派遣結果報告書

議会運営の活性化及び議会広報の充実のため、行政視察研修を下記のとおり実施したので、埴町議会会議規則第 77 条の規定により報告する。

記

- 1 派遣期間 平成 29 年 11 月 6 日～8 日（3 日間）
- 2 派遣先及び視察の内容
 - (1) 岩手県金ヶ崎町議会 議会だよりの編集・発行状況について
 - (2) 宮城県村田町議会 議会改革の取組状況について
 - (3) 岩手、宮城、福島 3 県の震災復興状況について
- 3 派遣委員

議会運営委員 割貝寿一、鈴木安次、鈴木 茂、（吉田克則）

広報常任委員 吉田克則、下重義人、七宮広樹

同行者 議長 大縄武夫、副議長 鈴木孝則

（随行者 議会事務局長、書記）
- 4 結果
 - (1) 金ヶ崎町議会

金ヶ崎町は、岩手県南部に位置し、東端を北上川に接した積雪の多い地域である。トヨタ自動車をはじめ、工業団地への大手優良企業の立地操業により、第二次、第三次産業の就業人口が高まっている。それに伴い、住宅団地の開発が進んだ。

「議会だより、かねがさき」は、議会広報常任委員会 7 人で編集発行し、これまでに町村議会広報全国コンクールで幾度も入選、最優秀賞を受賞している。編集方針として、事務局に頼らず議員が積極的に関わり、町民誰もが理解できるよう噛み砕いて編集し、翌月の上旬には町民の手に届くようにしている。議長、委員長が長期に携わっていて印刷所との関係も参考になった。

(2) 村田町議会

村田町は、宮城県南部に位置し、仙台市、名取市などに隣接する。面積 78k m²、人口 11,000 人、議員定数 14 人。古くから仙台と山形を結ぶ交通の要衝地。現在も東北自動車道村田インターチェンジ、村田ジャンクションなどによりその役割を果たしている。

議員改革の取り組みとして、平成 27 年から議会改革調査特別委員会を設置し、議会基本条例や政治倫理条例、通年議会、議員定数・報酬などを検討している。また、平成 29 年からは法令整備を目的として議会改革法令審査特別委員会を立ち上げていた。経過として、議論の中心は議員の定数と報酬であり、それ以外の改革について平均年齢 67.5 歳であるからか慎重な判断をしていた。

(3) 震災復興状況

復興が進む大船渡港、奇跡の一本松の陸前高田市、南三陸町を南下して視察。ダンプカー、重機の多さに驚いたが復興はまだ先のことだと思えた。風景を閉ざす防波堤が印象的であった。

(4) 委員報告書

別紙のとおり

広報常任委員会・議会運営委員会合同研修報告書

平成29年11月6日～8日

報告者 鈴木 孝則

11月6日

岩手県金ヶ崎町

平成25年度町村議会広報全国コンクールで再優勝を受賞した金ヶ崎町議会で研修した。編集方針として事務局に頼らず議員が積極的にかかわり町民誰もが理解できるようみ砕いて編集し翌月第一木曜日には町民のもとへ届けるという。表紙のシリーズ化や写真やレイアウトに工夫を凝らし特別企画も取り入れている。大変参考になった。

11月7日

宿泊した花巻市から遠野市、釜石市を經由し大船渡市で昼食をとり陸前高田市、気仙沼市、南三陸町を経て夕刻宿泊地の蔵王町着。

かさ上げ工事中の陸前高田は復興が遅れているが遠い将来を見据えて津波の被害を受けない町づくりを選択したが、かさ上げ工事はあと2～3年かかるようである。昼食をとった大船渡は5～6メートルの防波堤工事が進み海岸沿いまで建物が建ち始めていてかなり復興が進んでいると感じた。どちらが正解とか明暗を分けたとかではないが住民の選択について深く考えさせられた。

11月8日

宮城県村田町

議会改革の取り組みについて研修した。

平成27年から議会改革調査特別委員会を設置し議会基本条例や政治倫理条例、通年議会、議員定数・報酬などを検討している。また29年からは法令整備を目的として議会改革法令審査特別委員会を立ち上げている。

議員定数は現状維持・1名減・2名減で協議中、報酬は定数減と絡め現状の24万7千円から3万円アップを検討中とのことである。

議員派遣
委員派遣

調査研修等報告書

平成 29 年 1 1 月 1 4 日

議会議長
委員会委員長 様

提出者 鈴木安次

派遣目的 (調査等 名称)	議会運営委員会及び広報常任委員会行政視察		
派遣の 日時	平成 29 年 1 1 月 6 ~ 8 日	派遣先 (場所)	岩手県金ヶ崎町、宮城県南三陸町、 村田町
内容	金ヶ崎町議会だよりの編集・発行状況について 宮城県南三陸町被災状況 宮城県村田町議会改革の取り組み状況について		
派遣 結果 (意見 及び 感想)	<p>金ヶ崎町の議会だよりは全国トップレベルの広報誌であり、議会事務局に頼ることなく議員自らそれぞれ役割分担をして、取材、編集発行まで行っているのは素晴らしいことであるが、我が埴町議会においてそれが実行できるかははなはだ疑問である。</p> <p>伊藤雅章議長が長年にわたり議会広報に携わっている経験や編集方針が全国トップレベルの広報誌、いち早く発行できる基礎になっている。</p> <p>我が埴町の議会広報誌も紙面の余白の使い方。例えば一般質問の記事の取り扱い、議案審議の質問者名、写真を載せる事、事実をそのまま載せることは大切であるが、監査結果の公表も文章をもっと要約するなど改善点は多々あり、読者に読んでいただける紙面づくりにさらに努力していかなければならない。</p> <p>宮城県南三陸町奇跡の一本松周辺の被災状況が広大で復興後の完成図がイメージできない。その後、村田町まで移動する車中からダンプカーが数十台往復する姿を見た。これは三陸道路建設現場に携わるダンプカーである。建設現場が十か所以上あったと思われる。復興予算や三陸道路建設予算が十分に確保されていることがうかがえる。岩手県、宮城県共に力のある国会議員を当選させているので当然の事とは思いますが羨ましい限りである。</p> <p>研修最終日は常磐道を帰ってきたが福島県に入ると黒い除染土壌の入った袋が山積になっている姿ばかりが目について、復興に向けての建設現場</p>		

を見ることはなかった。あまりに放射能に汚染された影響が大きすぎて復興に向けて前向きな姿を描けない状況である。
政治の力は多大であり、福島県選出の政治家にはもっともっと頑張ってもらいたい。

宮城県村田町

我が埴町も議会基本条例は制定済みであるが、議会報告会を開いても町民の参加者が少ない。議員のなり手が少ないなど全国的な傾向であるようだ。その中でも村田町議会で検討されていた③選挙の公営化は大いに興味がある。我が埴町でも町民の批判にさらされているのは事実である。議員に立候補するにも選挙ポスター、選挙用はがき、遊説カーなど自費で用意する事が多い。すべてとは言わないが一部分でも公営で賄うこともこれからの事を考えれば必要ではないか。

若い人や女性が立候補できる環境を作ることも現職議員としての務めであると思う。

議会運営委員会、広報常任委員会行政視察及び、三陸沿岸復興視察報告書

日時 平成29年11月6~8日

鈴木 茂

場所 岩手県 金ヶ崎町、宮城県村田町、三陸沿岸

金ヶ崎町広報委員会

金ヶ崎町は人口15000人の町でトヨタをはじめ関連企業が約30社ということです。議会広報はここ10年ぐらい全国最優秀を取るなど、全国トップクラスです。その技術は洗練されており、さらに新聞社などプロに学んでおり他町の追随を寄せつけない勢いです。又スピード発行と議員がほとんど編集しており特に見習うべき、優れていることは子供からお年寄り、いろいろなジャンルの町民が主役のページが必ずあることです。高度な編集技術は簡単には習得できませんが常に上を目ざして行かなくてはならないと感じました。

村田町議会

村田町は人口11000人、議員は14人報酬は24万7千円であるということです。議会改革の取り組みについて研修をしました。議会基本条例、倫理規定条例制定を目ざして、「議会改革調査特別委員会、議会改革法令審査特別委員会」を立ち上げ平成27年12月に議会改革に着手しました。只、議論の中心は議会の定数と報酬についてが多くなり数多くの委員会を開いて話しあった結果は定数は2名減とすることが決まり、報酬についても若い議員が誕生し町のために活躍できるように高額にアップしたいとのことでした。又周りの町村も村田町に注目、期待を寄せているとのことでした。それ以外の改革についてはやや後退しているように感じました。このことから我が議会でも改革の道半ばでありさらには改革のスピード上げるべきであると思います。

三陸沿岸の復興状況

復興が進む大船渡港、奇跡の一本松の陸前高田市、南三陸町を南下しながら視察しました。ダンプカー、重機が所狭しと動き回り復興のスピードが加速しているようでした。しかし大きな橋の建設、市街地予定地のかさあげ復興高速道路の建設などまだ先が見通うせず復興は道半ばの感がありました。以上報告致します。

調査・研修等報告書

氏名	吉田 克則	提出年 月日	平成 29 年 12 月 11 日
調査等 名称	議会運営委員会及び広報常任委員会行政視察		
調査等 の日時	平成 29 年 11 月 6～8 日	場所	岩手県・宮城県
調査等 の内容 意見 感想	行政視察先 11/6 金ヶ崎議会視察 11/7 震災復興状況視察 11/8 村田町議会視察		
	金ヶ崎議会視察 金ヶ崎町は岩手県南部に位置し、東端を北上川に接する水と緑の自然環境に恵まれた町である。冬は積雪が多い地域である。産業は古くから米作地帯として就業人口の多くを占めていたが、工業団地への大手優良企業の立地操業により工場への就業人口が増えている。それに伴い住宅団地の開発が進んだ。金ヶ崎議会の議員定数 16 人。 「議会だより かねがさき」は議会広報常任委員会 7 人で編集発行をしている。これまでに岩手県町村議会広報コンクールや町村議会広報全国コンクールで幾度も入選、最優秀賞を受賞している。 議会だよりの編集は、①ありのままに解りやすく誰が読んでも理解できるようにかみ砕いて編集すること。②議員の力で議会事務局にたよらないで議員が積極的に編集に携わること。③スピード発行、議会定例会翌月の早めには町民の手に届くようにすること。以上 3 点を目指し、今回の研修で学んだことを実践していきたい。		
	震災復興状況視察 沿岸部の復興状況はまだまだだと思えた。途切れた建造中の高い防波堤もあれば、土盛りした工事現場がまだまだあります。津波被害した土地には住宅や商店市街地はほとんど見当たりませんでした。横断道路や自動車専用道路だけが復興整備が進んでいる状況に見えた。		

調査等 の内容 意見 感想	<p>村田町議会視察</p> <p>議会改革の取組み状況について</p> <p>村田町の概要 29年10月末現在 人口11,248人(男5,624人 女5,624人)宮城県の南部に位置し西に蔵王山系の山々を望む自然環境に恵まれた地で、古くから山形と仙台とを結ぶ城下町として栄えてきた。</p> <p>議会改革の取り組みは「村田町議会改革調査特別委員会」を平成27年12月に設置した。目的は、様々な角度から議会改革へ向けた調査研究を実施し、議会自ら不断の改革を推進すること。委員の構成は議長を除く全議員。条例定数14人。</p> <p>村田町議会改革調査特別委員会 調査項目</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 通年議会について 2. 会派制について 3. 政務活動費について 4. 議員定数について 5. 議員報酬について 6. 議会報告会について 7. 議員間自由討議について 8. 政治倫理条例について 9. 反問権について <p>このほか議会の情報発信のあり方について等特別委員会で調査を進めている。これまでに平成27年委員会2回、平成28年委員会9回、平成29年委員会10回を開催している。我が埴町議会においても議会の果たす役割と責任、将来へ向けた議会のあり方を更に研究して町民の負託に応えるべく議会活動をしていかなければと感じた。</p>